

# ～輝きの子育て～

## 便利なスマホだが？

「おはようございます！」「おはよう！」と朝一番に元気に交わす一日の始まりは気持ちの良いものです。その挨拶の言葉の中には今日も一日何事もなく、無事に楽しい一日を願っての気持ちもあります。顔を洗いサッパリとさわやかな気持ちで、皆が揃って食卓に向かい朝食を摂る。このような光景は最近ではあまり見かけられず、個々の生活リズムの違いでしょうか、子供でも孤食が増えているように思います。

時にレストラン等で恋人同士でしょうか、向かい合ってお食事をしている姿を見かけますが、楽しく会話を交わすこともなく、各々がスマホに目をやり夢中になっている光景は不思議に思います。友達同士、仲間同士でも同じような光景が見られ、スマホの力の大きさに驚きを覚えます。乳母車にのった小さなお子様をもつ母親でも、子どもがぐずれば直ぐスマホを渡し、自分もまた直ぐにスマホに目を向ける。このようにコミュニケーションの少ない親子の光景をみかけると、そんな子どもたちが将来どんな大人に成長していくのかと案じられます。スマホは「スマホ脳過労」で記憶力低下や無気力など悪影響も多いとも言われます。

先日、産経新聞に載ったフランス政府諮問委員会での報告書ですが、参考までに掲載させていただきます。

フランスの政府諮問委員会は、「携帯電話の使用は11歳以上に限定すべきだ」と勧告する報告書を発表した。携帯電話やテレビ、コンピューターなどのデジタル映像は「3歳未満は見せるべきではない」とも明記した。報告書は4月末、マクロン大統領に提出された。デジタル映像に長時間接することによる悪影響は科学的に証明されていないとしながら、政府は増大するリスクに対処すべきだと促した。交流サイト（SNS）などで暴力的な映像や偏見情報が流布されているとして、携帯電話は13歳までインターネットに接続できないようにすべきだとも提言。18歳で成人になるまでは、SNSのアクセス制限が望ましいとしている。諮問委員会は児童教育や心理学の専門家で構成する。

マクロン氏は報告書を受け、内閣に一月以内に対策を示すように指示した。SNSでは「いまの子どもは歩き始める前から、映像に接している」「動画アプリが広がっており、いまさら規制は無理」などの反論も広がっている。

子供のデジタル機器使用については、スウェーデンでも制限の動きが出ている。

政府は2月の声明で、デジタル教育推進政策を修正すると発表した。学校では書籍を配布し、図書館利用を進める方針。就学前の幼児教育からデジタル学習機器を外す考えを示した。背景には近年、子どもの読解力の低下傾向が指摘されていたことがある。スウェーデン小児科協会は、“2歳未満にはデジタル映像はみせない”“2～5歳児に見せる場合も1日1時間以内にする”などの提言を行っていた。

以上のような記載でした。一方、警視庁より出された「家庭のルール」を参考になさって下さい。

- ・接続するサイトやダウンロードするアプリは保護者に確認する
- ・下着姿や裸の写真は撮らない、撮らせない
- ・個人を特定される情報を書き込まない
- ・利用料金や利用時間を決める
- ・知らない人と電話やメール、メッセージの交換をしない
- ・困ったことがあれば、必ず保護者にすぐに相談する
- ・他人のID・パスワードを勝手に使わない
- ・ルールを守れなかった時のルールを決める